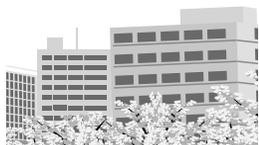


会員の広場



2023年(令和5年)兔年について!!

田川修司(東京)

2023年(令和5年)は「癸(みずのと)卯(う)」という年に当たります。かつては時間や方角を干支で表していました。卯の刻は午前6時の前後1時間ずつの約2時間。卯の方角は東。卯の月は新暦の3月頃。「癸」は大地を潤す雨や霧に例えられ発芽の準備をして待つ状態、「卯」は左右に開かれた門の形から出来たと言われており閉じられた門が開き「とび出る」という意味がある。草木が地上に萌え出し地面をおおうことを表しています。卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」また、その跳

躍する姿から「向上」を象徴するものとして親しまれています。他にも古来うさぎは神の使者とされ予言する能力を持つているとの言い伝えもあります。

何気なく見上げた夜空を眺めれば輝く月に黒っぽい模様「月のうさぎ」が目に入ります。「兎、兎なみにみて跳ねる十五夜お月さん見て跳ねる」(童謡うさぎ) 影は月の中で兎が餅をついている姿です。玄奘三蔵の『兔王本生譚』の飢えた老人に施しようとして炎に飛び込んで焼け焦げた野兎のお話は、『今昔物語集』の巻五第十三話「今は昔、天竺に兎・狐・猿、三の獣ありて、共に誠の心を発して菩薩の道を行ひけり」と焼身した兎。兎の捨身の心慈悲行、月の兎が生まれた話です。国宝『鳥獣人物戯画』(平安時代後期)では当時の世相を反映して動物や人物を戯画的に描いたものです。ウサギやカエルなど擬人化されてユーマラスに描かれて103匹の動物が野山を謳歌していますが、野うさぎが41羽と絵巻の主役ですね。

「かちかち山」(室町末期)「因幡の白兎」

(古事記)「兎と亀」「不思議の国のアリス」
「ビーターラビットのお話」「ナインチェ」
(ミッフィー、うさこちゃん)等うさぎの物語が沢山書かれています。それと「兎追いしかの山」(故郷)「ソラ、ソラ、ソラ、うさぎのダンス」(うさぎのダンス)「なんと、おっしゃる、うさぎさん、そんならおまえとかけくらべ」(うさぎとかめ)「待ちぼうけ、そこに兎がとんで出て、ころりころげた木のねっこ」(待ちぼうけ)「大きなふくろを、大黒さまが、うさぎ皮をむかれてあかはだか」(因幡の白兎) 皆さんはこれらの歌を一度は口ずさんだことがあると思います。

そして、うさぎの諺では、「兎の耳」人の隠し事やうわさ話を巧みに聞き出すこと「兎の字」免職されること「兎の毛で突く」きわめて小さいことのとえ「兎に角」何はともあれ「兎と亀」自己のおごりから失敗を招かぬように心したいもの「兎走鳥飛」あつという間に月日が過ぎていく「兎起亀拳」並外れて素早いこと「鷹目兎耳」情報を集める能力の高い人のこと「脱兎の如し」非常に速いこ

とのたとえ。「二兎を追う者は一兎をも得ず」どちらも手に入れられなくなるこのたとえ。株式相場では「卯は跳ねる」という格言があります。卯年には景気が上向いたり回復すると言われています。今年の経済活動は期待できそうです。諺には、鋭い風刺や教訓・知識などが沢山含んでいて不思議に人を引き付ける力があります。干支についてのことわざとか格言とかお話をまとめる事を行ってみました。その誕生は古くそして長く語り継がれてきた歴史や教訓など色々な事柄が沢山あります。

最近、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻などが世界中を大きく変えています。そしてそれらの背景が人々の価値観などを大いに変えています。先の見通しの付きにくい大変な状況ですがこれらの事が早く収束に向かい安心・安全な生活が来る日々を願っています。

(兎・うさぎのことわざに興味のある方は、事務局に連絡をくだされば興味あふれる資料を提供します。)